

理系グローバル産業人の育成プログラム構築における質保証の試み

足立薫（京都産業大学グローバル化推進室）

中村暢宏（京都産業大学総合生命科学部）

京都産業大学は文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル育成支援事業」に、「グローバル社会で活躍する理系産業人の育成」を事業構想として平成24年度に採択された（タイプB特色型）。本事業では、理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部の理系3学部と、外国語学部の協働のもと、一拠点総合大学の強みを生かしてグローバルな理系産業人の育成を目指している。事業の中心的な役割を担うのが、理系3学部で実施するグローバル・サイエンス・コース（GSC）のプログラムである。このプログラムでは育成する人材像として、（1）確かな語学力と異文化受容力を持つ若者、（2）自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者、（3）チャレンジ精神と主体性を持つ若者、（4）専門領域に関する確かな知識を持つ若者、の4つの柱を掲げ、コースのカリキュラム開発を行った。本発表では、コースカリキュラムの選定に関わり、以下の3つの視点から質保証の試みについて報告する。

学部横断の取組

「理系産業人」育成の中で、専門領域の学びはその根幹を支える重要な柱である。本プログラムでは、3つの異なる専門分野の学部が、それぞれの特色を生かしながら、1つのコースとしての統一性を保つことによって、お互いに刺激を与えあいながら切磋琢磨する環境を形成している。また、専門領域に関する情報を世界に向けて発信するため、語学・コミュニケーション能力の獲得を、もう一つの重要な柱と位置づけて、専門分野のコンテンツに基づき、発信型のコミュニケーションや論理的思考を強化する、理系ならではの英語の学びをコースに盛り込んでいる。

主体的な学びの環境と質保証

本プログラムのもう1つの特徴は、チャレンジ精神や誇りといった学生のモチベーションに係る面に焦点をあてたことである。未知の事象にチャレンジする積極性や、自分を客観的に肯定することで得られる自信に裏付けられて、知識を得るだけの学問ではなく、主体的に自らが学びを選択していくことが期待されている。GSCは主体的にコミュニティーを形成する環境を提供するとともに、本学が独自に開発した、オリジナルのルーブリックによるポートフォリオを用いて、学生の学びの振り返りを丁寧にサポートすることによって、学修の質保証の機能を強化していく。

内部質保証の体制

GSCの開発にあたっては、教育プログラムの開発を担当するプロジェクトチーム（PT）の他に、大学全体のグローバル化を推進するための支援体制が同時に設定された。事務、入学、教学、ラーニングコモンズなど関連する領域のそれぞれに、PTが起ち上げられ、全体PTの統括のもと、教育プログラムを支える体制が形成されている。さらに、これらのPTとは独立に、調査研究PTを置き、事業全体の進行について検証を行うことで、内部質保証のシステムを形成している。